

P1-062

社会福祉施設における医療的ケア児の外出時のトイレ貸出協力に関する意向調査

森藤 香奈子¹、石井 晶子²、斉藤 文音³、
白川 菜乃香²、本多 直子¹、佐々木 規子¹、
岡田 雅彦⁴、森内 浩幸⁵

¹長崎大学生命医科学域保健学系、

²九州大学病院、

³日本医科大学病院、

⁴みさかえの園あゆみの家、

⁵長崎大学病院小児科

【目的】

長崎県内の社会福祉施設において、医療的ケア児の認識および外出時の排泄ケア協力に関する意向を調査し、外出支援の取り組みについて検討する

【方法】

長崎県内の福祉施設および障害者支援施設（入所施設）計 126 施設に郵送法で質問紙調査をおこなった。調査期間は 2021 年 7 ～ 9 月で、施設内で地域の状況をよく知る担当者に回答を依頼した。本研究における「外来者」は、日常的に施設の利用／利用契約がなく、トイレや排泄ケアの場所の提供を希望するものとした。調査は所属機関の倫理委員会の許可を得て実施した。

【結果】

72 施設より返信を得た（回収率 46%）。医療的ケア児を「知っている」と回答した担当者は 54 名（75%）で、情報源はテレビ 31 名、新聞 23 名、研修会 13 名、施設内に利用がいる 7 名であった。施設内トイレの状況では、車いす等に対応できる広さが確保されているトイレは 58 施設（81%）で、バギーが方向転換できるものは 14 施設（19%）だった。外来者へ施設内トイレまたは排泄ケアに必要なスペースを貸出可能であると回答した 66 施設（92%）のうち、50 施設は任意での施設名および住所記入があった。調査時点で、8 施設（11%）はすでに外来者へ対応した経験があった。外来者へ貸し出す場合の利用条件は、場所の提供のみ 47 施設（65%）、ごみの持ち帰り 34 施設（47%）、開館時間内で対応できる職員がいるとき 28 施設（39%）、事前連絡 17 施設（24%）であった。

【考察】

医療的ケア児の認知度は高く、法律の制定により報道の機会が増えていることが、障害に対する理解が深まったことに影響していると考えられる。また、2019 年に実施した「外出時の排泄ケアに関連する困難感の調査」では、外出時に利用できるトイレやおむつ交換のスペースがないことが外出を制限する要因になっていることが明らかとなったが、協力施設と利用者のニーズをマッチングできれば、外出機会の拡大につながる可能性があると考えられる。

【謝辞】

本調査は、令和 2 年度小児保健・愛育賞の助成により実施した。

P1-063

手術目的で入院する子どもに付き添う母親の負担感とその関連要因の検討

山口 沙弥香¹、山内 沙弥¹、加藤 千裕¹、
山本 房美¹、齋 藤子¹、加藤 直美¹、遠藤 晋作²

¹名古屋市立大学病院、

²名古屋市立大学

【目的】

手術を受ける患児の付き添い者が感じる負担とその関連要因を明らかにし、援助方法を考える

【方法】

2020 年 5 ～ 9 月 A 病院小児科病棟に手術目的で入院する患児の母親を対象とした。同意を得た母親に質問紙を配布し対象の属性と入院における付き添い者の負担の回答を 4 件法で得た。データ分析は SPSS を使用し、背景要因の内、数値化できるものは spearman の順位相関係数を算出し、群分けできるものは Mann-Whitney の U 検定で群間比較を行った。A 病院の研究倫理委員会より承諾を得た。

【結果】

69 名から有効回答を得た。付き添い者の負担の平均点は「療養生活で子どもと一緒に生活することに対する負担」 2.6 ± 0.7 、「自宅にいる家族について」 2.6 ± 0.9 、「看護師について」 1.6 ± 0.5 、「自分自身の生活に対する負担」 2.6 ± 0.7 、「子どもの病気について」 2.6 ± 0.6 、「医療者からの説明について」 1.5 ± 0.5 、「経済面について」 2.4 ± 0.8 であった。また「自宅にいる家族について」で、「兄弟あり」が「なし」よりも、「術後の創処置あり」が「なし」よりも有意に得点が高かった。「経済面について」で、「大部屋のみ」が「個室利用あり」よりも有意に得点が高かった。さらに手術時間と「子どもの病気について」に有意な中等度の正の相関があった。

【考察】

母親は病室で子どもと一緒に生活することや、自分自身の生活が制限されることに負担を感じていたことから、療養環境について気にかけてできるだけ付き添い者の生活が制限されないように配慮する必要がある。また子どもの病気についても自責感から負担を感じると考えられ、母親の思いの把握や労いの声を掛けるなどの支援が必要となる。また自宅にいる家族についての負担も大きいため家族全体の支援体制のサポートが求められる。兄弟がいる、あるいは術後の創処置がある場合、自宅にいる家族についての負担が高かった理由は、自宅にいる兄弟への心配の他に、退院後も処置が継続することが他の家族への不安を高めたと考える。大部屋利用者が有料個室利用者より経済面の負担感が大きかったことは、有料個室を希望する家庭は経済的な面に関する優先度が低いためと考えられる。また手術時間が長いと子どもの病気に関する負担感が大きかったことから、手術時間が長い場合はより付き添い者の思いの把握や声掛けの工夫が必要である。